



## かんたんサンゴぬりえ（印刷用）

### 概要

サンゴ礁に生息する生き物の生態をテーマにしたぬり絵（3種類）に、解説文を読みながら色を付けていきます。生物の色は自由に塗っても、図鑑やインターネットで調べてぬってもいいでしょう。幼児や低学年の児童が一人でもでき、また短時間で完成できるようにまとめてあります。

### 学べる事

- 生きものについて書かれた説明を読みながらぬり絵を完成させる過程で、サンゴ礁で暮らすさまざまな生きものの特徴を学ぶことができます。
- 題材となっている生きものを、図鑑やインターネットで探すことをきっかけに、「調べ学習」へと繋げることができます。
- サンゴ礁の海で暮らす生物の色や模様が、多種多様であることに気づくことができます。

### 準備するもの

- ◆ぬり絵シート…「使用する教材」からダウンロードします。
- ◆「サンゴぬり絵」解説資料…「使用する教材」からダウンロードします。「かんたんサンゴぬり絵」は「サンゴぬり絵」低学年バージョンです。
- ◆色鉛筆…ぬり絵をするために使います。
- ◆図鑑…生きものの色を調べるときに使います。魚類・甲殻類・サンゴ礁の生きものなど、多様な図鑑を用意しましょう。
- ◆パソコン、タブレット…生きものの色を調べるときに使います。

### 実施の仕方

#### 1. ぬり絵シートを参加者に配り、説明をします。

例：「サンゴ礁の海にはとてもカラフルな生きものが住んでいます。絵の下の記事をよく読んで、書かれている生きものを探し出し、色をぬりましょう。自由にぬっても、図鑑で調べてからぬってもいいですよ」

#### 2. ぬり絵を始めましょう。

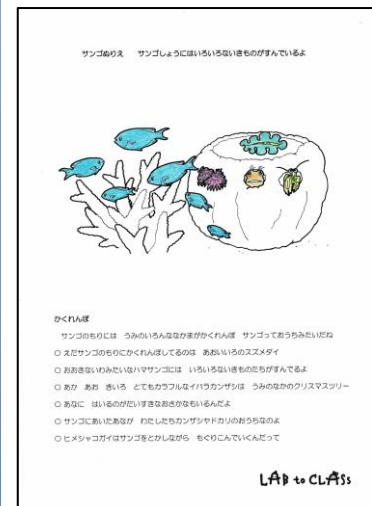
字が読めない小さな子どもには、指導者が文章を読み上げながら、一緒に色をぬる生物を探してあげましょう。作業をしている間に、年齢に合わせて生物の話をするといいでしょう。生物の色や話は「サンゴぬり絵」の同じテーマの解説資料を参考にしてください。



◎実施場所：室内  
◎所要時間：10分～30分

◆ポイント！図鑑の使い方を伝えておきましょう。図鑑は生物の種類によって掲載されている本が異なるので、対象生物が載っているか事前に調べておきましょう。

◆ポイント！海の生きものの写真は強い照明を使って撮ることが多いため、実際に目で見る色と異なることがあります。写真にこだわり過ぎないように声掛けをしましょう。





例：

○サンゴだいすき

・ミスジチョウチョウオ

「顔のところに黒い線が 3 本あります。目がつつかれないように黒い線で隠しているよ」

・カンムリブダイ

「サンゴ礁の白い砂は、サンゴの骨が細かく砕かれてできたもので、じつはブダイが食べたサンゴが、ブダイのうんこになって出てきたものもまじっているよ」

・サンゴガニ

「エダサンゴの間に住んでいます。赤い水玉模様や網目模様のとてもきれいなカニです」

・オニヒトデ

「サンゴがだいすき。体の下側にある口から胃袋を外に出して、サンゴをとかしながら食べます」

○かくれんぼ

・ルリスズメダイ

「サンゴ礁の海で泳ぐと、たいてい最初に見られる魚です。瑠璃色<sup>るり</sup>色がパッと目立って、とてもきれい」

・ハマサンゴ

「岩のような形をしたサンゴです。直径が 3 メートルを超える大きなものは、100 年以上も生きています」

・イバラカンザシ

「ゴカイの仲間で、細長い穴の中に体を隠しています。クリスマスツリーのように見える部分はえらで、ここで呼吸をしています」

・カンザシヤドカリ

「鳥の羽のような“触角”をうちわのように動かして、プランクトンを捕まえて食べています」

・ヒメジャコガイ

「青、緑、紫…いろいろな色のものがあります。指でつつくと身を引っ込めるよ」

○うみのなかよし

・カクレクマノミとイソギンチャク

「カクレクマノミはイソギンチャクの中に隠れて、敵から身を守っています。そして、イソギンチャクの敵も追い払っています。カクレクマノミがいなくなると、イソギンチャクは他の魚につつかれ、食べられてしまいます」

・エダサンゴとサンゴガニ

「サンゴガニは小さいけれど、とても勇敢です。エダサンゴを食べにきたオニヒトデに向かってハサミを広げ、撃退します」





### 3. 完成した絵を見せあい、感じたことや気づいたことを話します。

複数名で行った場合は、絵を並べて見せ合い、感想やぬり絵をして気が付いたことなどを話し合しましょう。

### 4. まとめの話。

例（うみのなかよし）：「海のなかの生きものには、いろいろなつながりがあります。食べたり食べられたりすること以外にも、違う種類の生きものが助け合って暮らしていることもあります。このぬり絵には、助け合って暮らしている二つのペアが描かれています。自分のパートナーがいなくなると、すぐに敵に襲われて食べられてしまうこともあるのですよ。小さくて弱い生きものは“弱点をお互いにカバーして暮らす”ことが、自然のなかで生きていく知恵なのです」

